

かたくり



第4号

2010年7月25日

福島大学

行政政策学類

塩谷教養演習

編集・発行

(隔月発行)

遊休農地再生事業（通称「Uプロ ジェクト」）次のステップへ！

本格的な夏が到来し、毎日厳しい暑さが続いています。Uプロジェクトもメンバー全員で協力し日々活動をしています。遊休農地では野菜たちがすくすくと成長しており、手探り状態ではありますが、やつと畑らしくなりました。今月号では、そんな農作業の様子や福島大学の取り組みなどをお伝えしたいと思います。

○第六回作業（五月二十九日）

前回の共同作業から約一カ月がたった五月二十九日（土）の朝九時、遊休農地の六回目の共同作業が行われました。蒸し暑い曇り空の中、福島大学の佐々木ゼミ、大黒ゼミ、西崎ゼミ、松野ゼミ、塩谷ゼミの先生とゼミ生が集まり、金谷川地区の老人会の皆さんと、農地の除草作業やゼミ単位の農地の植え付け作業をしました。

まず、各ゼミで場所を決め除草作業を行いました。たった一月の間にこんなに雑草が生えるのかと思うほど、農地にはたくさん雑草が生えていて除草作業は大変でした。中にはなかなか抜けない草や引つ張ると草だけがぎれてしまい根が抜けないものもあり、雑草の力強さを思い知りました。雑草のなかにはスギナが生えていて、西崎先生がそれを使ってお茶を淹れようとみんなで集めたりしました。



また同時進行で、「ミニ耕運機「陽菜（はるな）」を使って共同農地を耕しました。前回、根や石を取り除いたものの、まだ残っているものもあり耕運機に絡まりエンストしてしまうこともありました。また耕運機で耕してみても、場所によって土の固さが全く違うことに気づいたり、土の固さによって耕運機の歯の高さを微調整したりと、前回の作業で体験できない新しいことを老人会の方々に教わりながら、体験することが出来ました。

次に、共同農地の植え付け作業を行いました。前は種イモだけでしたが、今回は里芋、枝豆、南瓜を共同農地に全員で協力して植えましました。共同農地の植え付け作業が終わると、各ゼミ単位の植え付け作業に移りました。各ゼミ単位の農地は、縦四メートル、横九メートルの大きさで、前もって各ゼミの農地の場所をきめておき、あらかじめそれぞれで話し合っ決めて野菜を植えました。事前に植える場所を決めていましたが実際植えようとすると、幅が足りなかったり予定と合わない時もありました。また植え方もあらかじめ調べてきたのですが、これもなかなかうまくいかず、ゼミ内で話し合いを行い、試行錯誤しながら何とか野菜を植えることが出来ました。植えた野菜はゼミによって種類や数も様々なので、収穫が楽しみです。塩谷ゼミでは、落花生、チンゲン菜、ピーマン、ミニトマト、トマト、西瓜、トウモロコシを植えました。

植え付け作業が一区切りつくと、お昼休みになりました。大黒先生の作ったカレーや胡瓜の漬物、おにぎりなどが会議室に用意されていて、全員でいただきました。一仕事した後のご飯はとてもおいしかったです。また、農作業のときだけでなく、お昼休みの時間なども使って、

地元の方々ともふれあい親交を深めたいとも思いました。

お昼休みが終わるとゼミ単位の農地の植え付け作業を再開し、第六回共同農作業が終了しました。今回の作業でも地元の方々からたくさん新しいことを教えてもらうことができました。また、ゼミの農地は地元の方の手を借りず、自分たちで作業したので、作業が終わったときは達成感でいっぱいでした。これから自分たちの植えた野菜たちが立派に育つように、地元の方と協力しながら、手入れや毎日の水やりをしつつ行いたいと思います。野菜が育つにつれ、様々な仕事が増えると思いますが全員で協力しながら野菜を育てたいと思います。地元の方々も、福島大学の近くに来た時などは農地の様子を見てもらえたら嬉しいです。

また、後日、塩谷ゼミではゼミの農地に藁を敷きました。これは地元の方から頂いたもので、土の乾燥を防ぐためです。藁のおかげで土があまり乾燥しないようになりました。さらに別の日には、共同農地にビオトープが完成しました。ビオトープについては、西崎ゼミの西崎先生が9月号で紹介する予定になっているので、お楽しみに。



○ラブ！金谷川（第二回）

前号から金谷川で活動している団体を紹介しています。第二回目は「老人会」です。浅川地区には五つの老人会があり、今回紹介するのはその一つの「浅川千歳会」です。

六月二十六日に浅川千歳会の会長である相馬巧さんと、大槻久史さんとお話をうかがいに行きました。集合場所は浅川第四集会場だったので、私達は道に迷ってしまい、到着が遅れたにも拘わらず、さわやかな笑顔で迎えていただきました。

浅川千歳会は今から三十七年ほど前の昭和四十八年に設立され、現在は四十六人の方が所属しています。中には九十歳を超える方もいらっしゃいます。活動目的としては地区への社会奉仕と所属する会員の健康増進を掲げています。主な活動内容は年二回の地区内の道路・神社の清掃、研修旅行などです。また、九月中旬には全国の老人会が一斉に清掃を行っているそうです。地域行事の参加にも意欲的に取り組んでおり、地区の運動会や金谷川小学校の学習発表会などに参加されているそうです。小学校ともより一層交流を深めたいとおっしゃっていました。

老人会の中には女性部があり毎年、小学校や支所、学習センター、集会所などに合わせて千三百枚ほどのぞうきを寄付しています。さらに小学校には手作りの手ふきをプレゼントしたりもしています。

今回お話をお伺いした相馬さんと大槻さんには福島大学が取り組むUプロジェクト（遊休農地再生事業）に農業指導などで本当にお世話になっており、農業知識が乏しい私達をバックアップしてください。これから多くの作業・交流を通して、私達に農業知識を教えてください。金谷川の歴史や文化や行事を教えてください。ただけらと思えます。



→農作業に協力して
いただいている様子

○地質調査結果報告

五月十三日（木）、遊休農地（大学人口手前の谷部）にて、福島大学共生システム理工学類の柴崎直明先生と学生十六名、アシスタントの大学院生四名による「地球環境科学実験」での地質の電気探査が行われ、「かたくり三号」でその様子を紹介しました。そして今回は調査結果を報告したいと思います。

電気探査結果を解析したところ、土壌が五層構造であることが分かりました。このうち一層から三層までは谷を埋めている埋積土であると推定されます。埋積土の厚さは十二mと考えられ、予想よりも厚みがあったそうです。また、四層目と五層目は岩盤と推測され、谷の基盤深度が比較的深いことから、埋積土の中にはある程度の地下水が存在していると思われます。今回の調査結果はあくまで推測であり、また調査地点も一地点のみであるので、立体的な谷の地下構造を把握するためには、探査地点を増やしたりする必要があるとのことでした。



○金谷川地区をもっと知ろう！

かたくり第三号でもお伝えした通り、塩谷ゼミでは金谷川地区をもっと知ろうということで、所属する学生が五つの班に分かれ金谷川を調査、ゼミで発表してきました。しかしまだまだ知らないことはたくさんあるということで、調査を継続し、その成果をこのかたくり上でお知らせしていこうということになりました。そして第一回の今回は、金谷川駅について調査した第四班の成果をお知らせしたいと思います。第四班が行ったことの内容としては、大きく（一）金谷川駅の歴史を調べる、（二）実際に駅員さんにお話を聞く、（三）金谷川駅に関わっている学生団体を調べる、この三つがあります。

まず、金谷川駅の歴史を紹介したいと思います。金谷川駅は約百年前の一九〇九年（明治四二年）に開業し、一九七九年には福島大学が金谷川キャンパスに移転しました。一九八三年には、駅舎がそれまでの木造駅舎から現在の橋上駅舎に変更され、二〇〇八年には、ホームの駅名標が福島大学の写真と「福島大学前」の表記が入ったものに交換されました。そして二〇〇九年には、エレベーターが設置され、ICカード「Suica」のサービスが開始されました。開業当時と現在では、福島大学の移転に伴い、駅周辺の様子も変化してきましたが、金谷川駅も時代に合わせた変化をしてきたようです。

次に、駅員さんのお話を紹介したいと思います。お話によると、やはり学生の数が増えたということでしたが、それと同時に、学生のマナーの悪さが目立つということでした。具体的には、夜飲み会などから帰ってくる学生の声がうるさい、駅のごみ箱に大量のごみを捨てていく学生がいる、といったものでした。一部の学生のマナーの悪さが福島大学全体のイメージとして残ってしまうことは非常に残念です。

一方、以上のような学生がいる中で、金谷川駅をよりよいものにするよう活動、計画している学生団体もあります。その内の「まちづくりサークル」と「Keys」を紹介したいと思います。まちづくりサークルは、駅の掲示板に福島のおすすめの店が掲載された地図を掲示する、また、「KAPPA」（金谷川をPOP化PROJECT）という団体が提案した駅前広場の設置に参加する、といったものです。「KAPPA」は駅の待合室の整備にも関わっており、市のまちづくり事業にも応募し助成金を受け、関谷の町内会や子供会の方たちとの花植え・食事を企画したそうです。しかし、今は交流や広場の整備をどう続けていくかということが課題だそうです。次に、Keysでは今後の活動について積極的に話し合いをしています。例えば、学生や地域の方々が利用できるカフェを駅に設置する、無人の野菜販売所を一か所に集める、暇をつぶせる場所として、駅前図書館のようなものを設置したいという案です。どの団体も、大学生に問題意識を持ってもらい、それを共有していきたいということです。

これらの調査を終えて、第四班のメンバーは大学生のマナーなどを考えさせられることが多かったようです。今後かたくりに注意を呼び

かける記事を載せたり、駅にポスターを貼らせてもらうなど、改善点を追求していきたいということでした。

次号は、福島大学周辺の神社を調査した第三班の成果を紹介する予定です。よろしくお願ひします。

○プロジェクトU（プレゼン報告）

多くの方々の協力を得ながら今軌道にのっているUプロジェクトは、これからたくさん活動をするための助成金を得たいと思い、福島大学のキャンパスライフ活性化事業に申請しました。その結果、見事採択され助成金を受け取ることができました。その採択の決め手となったプレゼンテーションの内容と助成金の使い道について報告したいと思います。

プレゼンテーションには行政政策学類四年西崎ゼミの横山晋哉さんをはじめとし、遊休農地に関わるゼミの代表者が参加しました。プレゼンテーションは五月二十六日に行われ、審査員は各学類から選出された先生方でした。

事業名称は、たくさん候補の中から選ばれ、「プロジェクトU」あの素晴らしい畑をもう一度」に決まりました。

私たちの事業を知ってもらうため内容の濃いプレゼンテーションとしました。事業の動機や目的としては「地元住民と学生同士の交流」、「大学とその周辺の環境改善」、「金谷川地区の活性化」、「学習の場」などを挙げ、遊休農地の現状や今後の展開として、景観作物（そば・菜の花）の栽培やビオトープの整備、堆肥づくり、地産地消なども紹介しました。また、「金谷川活性化委員会21」、「アップルファイブ」、「老人会」などの事業に関わっている団体も取り上げ、一層プレゼンテーションの中身を充実させました。質疑応答では審査員の方々からするどい質問が多々でしたが横山さんが的確に答えてくださいました。また為になるアドバイスも頂き非常に有意義なプレゼンテーションとなりました。

後日、審査結果が届き目標金額の五十万円には届かなかったものの助成金三十九万円をいただくことができました。内訳は以下のとおりです。農具・種子など十六万五千元、重機貸借・残土処理費用二十万円、講演料二万五千元。

今回のプレゼンテーションは大学に私たちの活動を伝えることができたうえ、採択され助成金を頂くことができたので大成功に終わったと思います。一年生からは七人関わることができ、とても良い経験となりました。助成金を得てますますパワーアップしたUプロジェクトにご期待いただくとともに、今後もお力添えいただきますようよろしくお願ひいたします。

お知らせ

プロジェクトUの一環として、講演会「地域資源を活かしたふるさとづくり」遊休農地に挑む者たち」を開催します。

日時：八月七日（土）十四時～十六時

場所：福島大学（M講義棟二二教室）

講師：NPO法人ゆうぎの里東和ふるさとづくり協議会

（理事長・大野達弘さん・新規就農者・斎藤知子さん）

講演内容：①ゆうぎの里東和ふるさとづくり協議会の概要（四十五分）

②新しく農業を始められる方のお話（四十五分）

講演会は無料です。事前の申し込みは不要です。

また、講演会の前にはソバまき（九時～十一時）、昼食交流会を予定しています。興味のある方は気軽に足を運んでください。



『かたくり』に対するご意見・ご要望もぜひお寄せください。連絡先は福島大学塩谷研究室（TEL&FAX：548-8328

MAIL: shioya@ads.fukushima-u.ac.jp）です。よろしくお願ひ

いたします。なお、本号の編集は、塩谷教養演習一年生の開山貴史・千田かな・長谷川由佳・畠山亮が担当しました。